

時には出てこないが、対となる存在であり、サクラという花が、古代から「サクニル」ものとして認識されていたことを示している。

【サ】

サキイカヅチ／析雷／①③

死んで黄泉の国にいるイザナミの腐爛死体に湧いた八柱のイカヅチの一つで、陰から生まれた。

サキ（裂けた、女陰のイメージ）イカ（威力ある）ツ（の）チ（神をいう呪的接辞）。他の部位のイカヅチは適当に当てはめたようだが、ほとの場合には連想が固定化する。↓イカヅチ

サキタマヒメ／前玉比売／⑤③

オホクニヌシの系譜でハヤミカノタケサハヤチヌミと結婚してミカヌシヒコを生む。アメノミカヌシの娘。サキ（幸い）タマ（神霊）ヒメ（女神）で、神を依せる巫女の意。

サクヤビメ↓コノハナノサクヤビメ

サシクニオホカミ／刺国大神／③④

サドの島／佐度島／①②

イザナキとイザナミが地上で最初に生んだ八つのおおきな島（大八島国）のうち七番目に生んだ島。この島には神の名がない。佐渡島のこと、古事記に出てくる地名のなかでもっとも北に位置する。

サヒモチの神★／佐比持神／⑦⑥

ワタツミから帰るホヤリを、「一尋和迹」が背中に乗せて一日で送り届け、ホヤリがお札に紐付きの小刀を与えたところから名付けられたという。サヒ（刃物）モチ（持つ）の神の意である。ワニはサメをいう古代語だが、ワニ一般ではなく、サヒモチと呼ばれる種類のワニがいたのだと思われる。その種類についてはあまり論じられることはないが、頭の先端に翼のような肉をもつシユモクザメ（仏具の撞木に似ているところからの名付け）のことではないかと思う。撞木ではなく、もらった小刀をもっていると古代の人は考えたのである。ちなみに、ワニなど

スサノヲの系譜でアメノフユキヌと結婚するサシクニワカヒメの父。サシ（刺シ）クニ（国）オホカミ（大神）で、土地を占有する大神の意。

サシクニワカヒメ／刺国若比売／③④

スサノヲの系譜でアメノフユキヌと結婚し、オホクニヌシを生む。父はサシクニオホカミ。サシクニ（土地を占有する）ワカ（若々しい）ヒメ（女神）。オホクニヌシの母で、神話の中に母は登場するが、その名が明示されることはない。神話と系譜とは別に伝えられていたと考えられる。

*サジフツ／佐士布都神／中ニ神武条

タケミカヅチがもっていた剣の名。サジは刀剣にかかわる語か、フツは、一般的な解釈では物を断ち切る擬音語とするが、三品彰英「フツノミタマ考」は、古代朝鮮語の *pur*（火）・*purk*（赤・赫）*pat*（明）など同系の語で「光るもの、赤きもの——神霊」「神霊の降臨すること」を意味する語という。石上神宮の祭神。

海獣の背に乗るとい話は民間伝承にしばしば見られ、難破した男がサメに送られて家に帰り、それ以来サメの肉を食べないという伝承が沖縄など各地に伝えられている。

サヨリビメ／狭依毘売命／②③

アマテラスとスサノヲとのウケヒによる子生みで、アマテラスがスサノヲの剣を噛み砕いて吹き出した女神三柱のうちのイチキシマヒメの名。宗像（胸形）氏の祀る宗像大社中津宮の祭神。サ（接頭語）ヨリ（神の寄りつくこと）ヒメ（女神）の意で、神を依せる巫女の通称。

サルタビコ★／猿田毘古神／⑦①・②

伊勢を本拠とする海人系氏族の祖であり、芸能にかかわるか。アメノウズメを祖とする猿田氏と同族とみられる。サル（猿）タ（ツの転か、の）ヒコ（男神）で、猿田を漢字から猿の守る田のように解するのが一般的だが不審。「猿の男」の意で、滑稽な技を演じるさまをいう名か。海で貝に手を挟まれて溺れたさまを演じたこと